

# ジョージアンヌ・バーラジさん、アラン・オーバーマイアーさん、 ジェームス・ネルソンさん

## 宮城県細倉鉱山（仙台第3分所）訪問

Georgianne Burlage さん、Alan Overmier さん、James Nelson さん、エスコートさん、ナー  
スさん（ネルソンさん付き）の宮城県細倉鉱山訪問の報告いたします。

9世紀に発見された細倉は鉛・亜鉛を産出する金属の鉱山。17世紀、仙台藩が鉛と銀の鉱山とし  
て開発、1890年に一般会社の所有となりました。その後、1934年三菱マテリアルが所有者とな  
り、2006年、現在の細倉金属鉱業と改名しました。2005年、三菱マテリアルは同社が捕虜達を  
使役した細倉、尾去沢、そして兵庫県の明延、生野の四か所の捕虜収容所跡地に、説明版を設置  
し、謝罪と恒久平和への決意を表明する最初の日本の会社となりました。

宮城県の仙台捕虜収容所第3分所・旧細倉鉱業は、現在は細倉金属鉱業となっています。三菱マテ  
リアル株式会社の東京本社からお二方がお越しくださって、人事・総本部総務部総務室総務グルー  
プ・廣川氏が、英語で歓迎と旧細倉鉱業と捕虜使役についての歴史、現在の細倉金属鉱業について  
の説明をしてくださいました。Hosokura Metal Mining Co., Ltd.の英語資料もいただきました。  
また、同じく三菱マテリアルの一部であった仙台捕虜収容所第6分所・尾去沢についても、ジムさ  
んへ向けた説明がありました。

ここで、父上が仙台収容所第2分所・好間（よしま）に、1945年5月から配置されたアランさ  
んが、「自分の父と彼のいた収容所について言及がないのは、どうしてか」と質問をなさいまし  
た。父上 William Overmier 氏は、1942年10月から東京捕虜収容所第1分遣所の三菱ドックで  
船の修理に従事。1945年5月空襲の激化により同分遣所が閉鎖されたため、他の17名のアメリ  
カ人とともに、古河鉱業が所有する仙台捕虜収容所第2分所、好間（よしま）に送られ、最初は  
石炭採掘、1週間後に戸外での野菜作り（通称「Yama(山)」）の仕事に変わって、終戦を迎えたの  
です。

息子のアランさんは、日本再訪を希望なさらない父上にかわり、今回来日されましたが、事前に  
米国務省に提出した訪問希望地には収容所跡地訪問は出しておられなかったのです。しかし、日  
本側としては、すべての参加者に公平に資料を差し上げたく、POW研究会の笹本さんが、各自の  
父上についての資料を用意してくださいました。アランさんは9月2日の夕刻、横浜港に残る東  
京捕虜収容所第1分遣所・三菱ドックに、他の方々と共に案内され、特に笹本さんから説明を受  
け（通訳伊吹）また3日の交流会でも、好間で解放後撮影された大きく鮮明な米捕虜たち17人  
のグループ写真をプレゼントされ、大変喜ばれました。今回、細倉訪問の体験も加わり、ご自分  
も父上の日本での状況を詳しく知りたいとの思いが目覚めたようで、旧細倉鉱業がホストとして  
お招きくださったこの場での質問となったわけでした。ちなみに仙台第2は古河鉱業の所有で  
す。廣川氏は「彼にはすまないことだった。好間は古河鉱業さんですね」と恐縮しておられ、お  
人柄の温かさと真摯なお気持ちに感動しました。

外へ出て碑を見学。当時の建物の前で、全員で記念写真。捕虜収容所のあった向かいの丘も遠望し  
ました。いまは建物も取り壊され、道もなく行くのは困難だそうでした。それから細倉金属鉱業の

社員の方々のガイドで、皆、ヘルメットをつけ、ひとつだけ公開されている坑道に入坑しました。金属を産出する鉱山で、最初は露天掘り、いまも山上へ行けばその窪地があるとのこと。岩盤が硬いので、この鉱山、落盤の恐れはないのだそうです。ただし、地底にガスが充満すれば危険で、それを察知するためカナリアが使われました。鳥の籠、また急遽地表に上がるための小さな手動エレベータの展示された奥まった一画があります。廣川氏は、ここでヘンリー・チェンバレンさん<sup>1</sup>が、昔のことが蘇る、と泣かれましてね。「色んなことがあったんだよ」といろいろ話してくださいました、とおっしゃり、いかにも感慨が深そうでした。私が「チェンバレンさんは、その後、昨年、今年と続けて米捕虜組織（ADBC-MS）の大会に出席なさり、お元気です。あの旅は行って良かった。細倉へは僕は祈りに行ったんだ。と話してくださいました」とお伝えすると、とても嬉しそうでした。

細倉鉱業の他の社員の方々も、質問に答えていてくださいましたが、「このようなことが可能になり、日米双方が学びあえる。素晴らしいですね」といった会話があちこちで聞かれました。

坑道出口で、ジョージアンヌさんが一行を代表し、「父のいた現場でこのように温かく迎えていただき、心から皆様に感謝します。帰ったらこの体験を家族、友人たちに広く伝えます。いままとめている父の本にも入れます。今日のご事は生涯、決して、決して忘れません」とご挨拶なさいました。その後、ミュージアムと付属したショップでしばらく過ごしたのち、会社の方がたの笑顔に送られてバンは出発しました。

それから仙台城址に向かう車中で、伊吹は笹本さんによる好間収容所のレポートを英訳したもの5ページ分をアランさんに差し上げました。なかに引用された一人の言葉、「古河は大企業のため食事はそれほど悪くなかった」に反発なさるアランさん。「これは特定のひとりによる情報。各自異なる体験があり、アランさんを通してお父様からの情報提供が、求められているので、資料を完成するために貴方もご協力を」とお願いしましたし。すぐ書くとおっしゃり、「父はあまり話してくれないんだ」と仰りつつ質問も添えて、1パラグラフを書いた資料をご返却くださり、12日、笹本さんにお渡ししました。

アランさんの発見には、翌日9月5日、宿泊したホテルの朝食ダイニング・ルームでの後日談があります。早く降りてきたアランさんとジョージアンヌさんがウェイターさんに好間について質問したところ、彼は 아이폰 上の地図でその場所を示し、車なら2時間、JR線を使えば郡山から近いが、郡山を通過する新幹線もあるので要注意、と懇切にご説明くださったのです。そこへ伊吹が合流。「そんなに近いんだ。これから行こう！」というアランさん。「これは外務省のプログラムで急な変更は無理。事前に貴方は米國務省にその希望を伝えましたか？」と質問。「それはしていない」とアランさん、納得されました。

4日の青葉城址、翌日の小高いビューポイントからの仙台湾と松島の絶景。ついで瑞巖寺見学。4日、5日とお世話になったバンのドライバーさんは元添乗員。知識と蘊蓄の深い方で、一行は、みな「We are lucky!」と大いに満足でした。

帰京後は、ネルソンさんご希望の「神田軍装」行きの個別プログラムを実施していただきました。（前日の夕食でこれを知ったアランさんも同行したいと言われたのですが、これは叶いませんでした。）

---

<sup>1</sup> リチャード・チェンバレンさんは2017年、娘さんとともに同じ外務省の交流プログラムで来日し細倉鉱山を訪れた。

ナースさん、エスコートさんに加え私も同行させていただきました。英語の上手な女性店員が「お待ちしております」と対応。けれど、このお店は品物は豊富ながら高値。ネルソンさんが購入したくなった品はありましたが、予算に合わず残念でした。同じものがアメリカでなら3分の一の値段で買える、と彼は仰っていました。腰の故障を抱えながらの来日で、時折、壁際で背中をまっすぐに立て、休息しておられ、あとにお障りないよう願うばかりでした。しかし、9月11日には、お元気なメールが来て一安心です。最後にエスコートさんは優秀で明るく温かいかたで、皆さんにとっても喜ばれ楽しい旅でした。



細倉金属鍍業本社前にて：細倉金属鍍業の関係者(左2名、右1名)、左より：アランさん、ネルソンさん、ジョージアナさん、伊吹由歌子、エスコートさん。

(報告：伊吹由歌子さん 捕虜 日米の対話 東京代表)